

求職者目線から見た介護職について

～人手不足分野における人材確保について～

厚生労働省 兵庫労働局

豊岡公共職業安定所 所長 谷岡 善裕 氏

但馬地域の雇用失業情勢や高校生の進路など、現状をまず話した上で就職希望者やその人達が介護業界をどのように見ているのか話す。

今後の生産年齢人口の減りは丹波より但馬の方が大きい。約1100名が進学で但馬外に出るが、その人は基本的に但馬に帰ってこない現状がある。

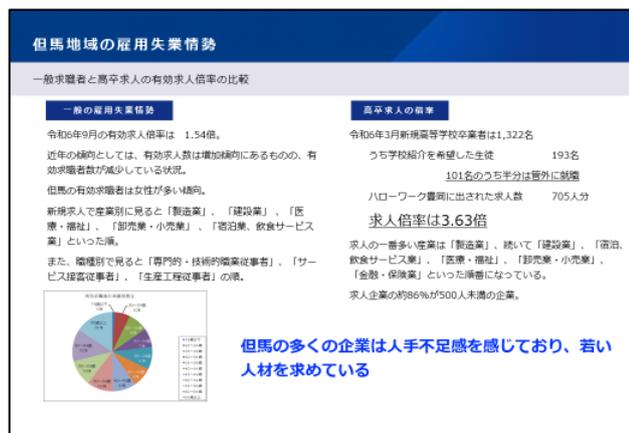
求職者数を大きく上回る求人・但馬の求職者は50歳以上が半数以上

但馬の有効求人倍率は1.54倍。求人数の方が多くなっている。今年9月時点のデータで但馬全体の求職者数は2600人で求人数は4900人分出ている。医療福祉系の求人は全業種のうち3番目に多い。

但馬の求職者の傾向は女性が多い。年代構成は50歳以上が半数以上となる。

求職者は「働きやすさ」を見ている

求職者から見ると仕事を行う「環境」を重視していることが分かる。若者の全国的な傾向では、安心して働ける環境が大きな要因となっている。社風や福利厚生、人間関係や会社の安定性や給与額も重視している。



高校卒業者の求職者の動向について、この春の卒業生1322名のうち、但馬に残って就職したのは92名となっていた。

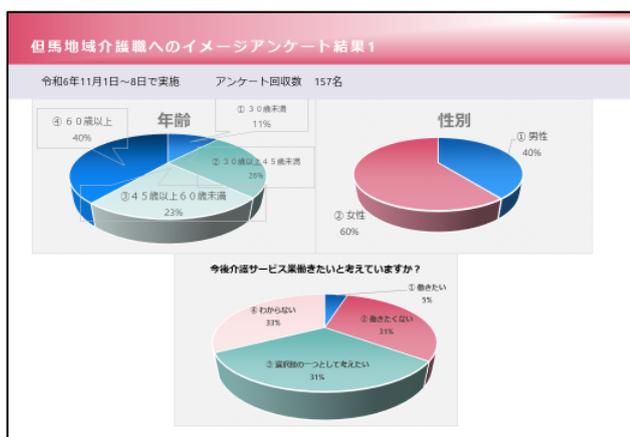
最近は大卒でも就職先の選択に保護者の意向が重視されるようになってきている。(高卒では従来から保護者の意向が大きく影響している)。会社が内定を出すときに親にも連絡し、内定の上承を得ている企業

もある。

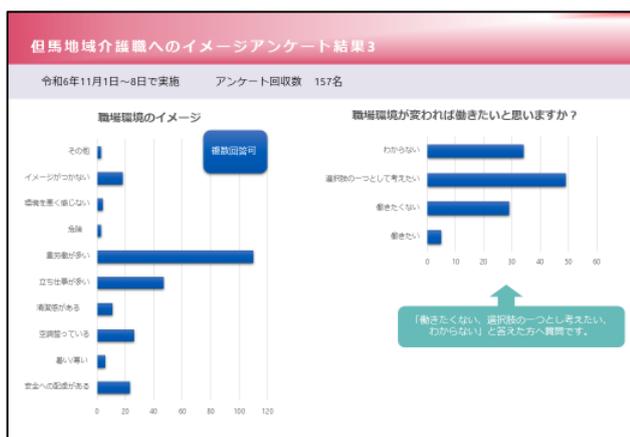
求職者の多くはインターンシップや職場見学に行き、実際の会社の雰囲気を見ることを大切にしているようである。

「介護の仕事」への関心は思ったより高い

ハローワークに来た求職者に介護職の印象のアンケートを実施してみた。半数以上の人が介護の仕事を選択肢の一つとして考えていることに驚いた。



一方で介護に対するイメージは重労働であると思われており、加えて給与が低いというイメージが先行していることが分かった。職場環境に対するイメージも重労働が先行している。介護現場の職場環境が変われば働こうと思う人も多いのではないかと。



求職者は介護の現場を見てみたい

求職者へのアンケートでは介護の仕事について、情報提供や実際の職場見学などの要

望があり、興味ある人が多いことも分かった。



但馬地域では行政等が行うヘルパー研修など介護の職業訓練が都市部と比較して少ないことから、長寿の郷と協働して介護の仕事のガイダンス・体験会を実施した。

当初、参加者が集まらないと思ったが思ったよりも集まり、1年目の昨年度は体験会のみを開催し、2年目は体験会と介護現場（企業）の見学会を同時開催している。



参加者アンケート結果では非常に参考になったという回答が多く、実際の介護や最新の機器を見て体験してもらおうと、介護の仕事に対する印象が変わるのだと思った。

イベントに参加した求職者からの声

1 体験・見学会の感想について	2 上記の理由をお答えください
参加しなかった	11
参加した	5
あまり参加しなかった	0
参加しなかった	0

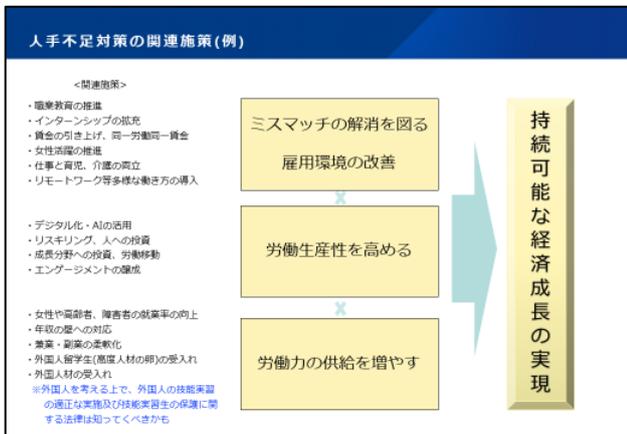
理由

- ・介護職だけではなく幅広い職種を希望しての介護もあるんだと思った
- ・各介護施設の良さを知ることができた
- ・実際に働いてみることで大体的な内容は分かったが、より具体的にイメージできた
- ・実際に働いてみることで介護士としてのイメージがかわりました。(ほか介護)から介護士や福祉職を使うなど
- ・期待は違っていたとは思いますが、身体の不具合等、とても影響になりました
- ・期待の異なるイメージは違っていたがアウトカムな等価観でイメージが変わりました
- ・見学まで参加した
- ・実際に施設を使って体験できたので参考になりました
- ・まよが介護職で仕事をするのイメージがかわりました
- ・たいへん参考になりました
- ・とても有意義な経験でした。ためになる話とためになる経験は今後の参考にになりました
- ・介護される側の立場で経験出来ました
- ・少子化と高齢化の両方、考え方で参考になりました
- ・介護職の導入が介護にも使われていく便利だと思えました
- ・デジタル技術により入所者の健康管理がされておりました
- ・仕事内容、待遇もイメージがかわりました
- ・施設の中に入って実際に様子を見ることができたので

厚生労働省でも介護福祉分野の人材充足を重点項目としており、ハローワークを会場に介護の仕事紹介を実施していたが参加者が伸びなかったため、今年度の11月に豊岡の商業施設で介護施設のプレゼンテーションと面接を試みたところ、昨年度の倍以上の参加者があり、説明会の雰囲気や企業を知ってもらう大切さを認識した。

今後の人材確保に向けた取組方針

政府が示す人手不足対策の3本柱。



▽労働者のライフスタイルに応じた雇用環境作りを行い労働者とのミスマッチの解消すること、▽AI や ICT 技術等の導入による生産性向上、▽元気高齢者、女性や外国人人材の導入など労働力の供給増加を掲げている。これらを踏まえつつ、若者を集める視点として若者は働きやすさを見ていることを再認識して欲しい。県や国は働きやすい職場であることの認定・認証を行っ

ており、こんな認定を受けていたら優良企業ということが示されている。

こんな認定を受けていたら優良企業

郡市以上の大きな変化が生じている

●ユースエール認定企業(厚生労働省) ●えるぼし認定企業(厚生労働省) ●くるみん認定企業(厚生労働省) ●SDGs宣言企業(兵庫県) ●SDGs認定企業(兵庫県) ●フレッシュミモザ企業(兵庫県) ●三モザ企業(兵庫県) ●ワーク・ライフ・バランス宣言企業(兵庫県) ●ワーク・ライフ・バランス認定企業(兵庫県)

また、兵庫県に本社等置かれている企業が上記の兵庫県の認定を受けている場合は、学生は兵庫県奨学金返済支援制度を利用できる場合があります。これ以外にも、朝来市では奨学金の返済の上乗せ制度を新たに創設している。但馬でも奨学金の返済の上乗せを考える自治体は増えるかも？

総じて、上記のような認定を受けている企業は、行政が一定の基準に基づき認定を行っているので優良企業といえます。

この中には毎年基準をクリアしないといけないものもあり、例えばユースエール認定企業は、残業時間、有給休暇の取得日数、若者の離職率が少ないといった要件があり、この認定を継続できているということは労働者が働きやすいと感じている企業とも言えるのではないのでしょうか？

但馬内でも複数の施設が認定を受けている。建設業では先んじて女性活躍の認定資格を取ろうと働き方改革を進めてもいる。